

寒暖の変化が激しい中、皆様いかが御過ごしでしょうか。

まず、表紙を飾ったのは、清水 隆裕先生から梅の花の写真です。花言葉に「忍耐」が含まれており、まさにこのコロナ禍という激寒の冬の季節を乗り越えつつある現在にふさわしい花と思います。

沖縄県医師会災害医療委員会委員長 出口 宝先生から3年ぶりの開催となったツール・ド・おきなわ、美ら島レスキューについて報告していただきました。スポーツイベント医療救護と災害医療とはこんなにも関連があることがよく理解できました。3年振りの開催であり、問題点もあったようです。

生涯教育のコーナーでは、光クリニック金城 光世先生に自己免疫性胃炎について御執筆していただきました。多くの自験例を含め、詳細に報告していただきました。増加傾向にある病態であり、内科医として非常に勉強になりました。

月間行事のおしらせには、世界腎臓デーによせて古波蔵 健太郎先生より、御寄稿していただき、かかりつけ医の先生方と腎専門医が連携

を深めながら様々な専門職からなるチームと地域自治体そして医師会が一丸となってCKDの重症化予防に取り組むことが重要であると述べています。

『世界結核デー（3月24日）』に寄せて、沖縄県 中部保健所 副参事の 大西 真先生から御寄稿していただきました。結核患者は減少しているようですが、コロナ禍の影響もあるようで注意が必要とのことでした。耐性結核菌も出現しており、未だ気を抜けない感染症であると感じました。

随筆には、安次嶺 馨先生から「ヨーロッパ・オペラ鑑賞ツアー」と題して御寄稿していただきました。私には縁がないようなツアーですが、ヨーロッパでの学会参加の際にはオペラなど鑑賞してみたい気分になりました。

世の中は、with or post コロナの時代へと移り変わっていますが、医療現場ではまだまだコロナの影響があり、苦労が絶えないかと思えます。しかしながら、厳しい冬の時代からようやく春の兆しが見えてきていると感じています。

広報委員 間仁田 守

